



ネットリテラシー特集

情報モラルの土台となるインターネットの知識

「甘い言葉に弱い」特性の情報を集めている！？ 個人情報だけ守れば良い、が間違っている理由。

「むやみにネットに名前や住所を出してはいけない」。こうした考えは今や常識として、多くの人に共有されています。実際、学校の情報モラル教育でも「個人情報を守ること」は最も基本的なポイントとして取り上げられています。けれど、ここに一つの落とし穴が。それは、「個人情報だけを守っていれば安全」だと思い込んでしまうことです。

もし本当だったら損するな ... 誰もが抱く心理

「初心者でも稼げる」「学生でも OK」。いつも何気なく見ている SNS に並ぶ魅力的な言葉。「嘘かもしれない ...」と一度は思うものの、「もしかして本当だったら ...」という気持ちが勝ります。そうすると矛盾する事実は無視しようとするのが人間の心理。「今やらなきゃチャンスを逃すかも」「本当に詐欺ならこんなこと書かないはず」と正当化してしまいます。



詐欺に巻き込まうとする犯罪者は、「弱さ」を持っている人を探しています。

騙そうとする人は「常識的」に見せる

「闇バイト」や「詐欺」という言葉にはなんとなく怪しげなサイトが存在するようなイメージがあります。しかし、実際にはごくごく普通に見えるサイトや SNS の投稿が入口。信頼や親しみやすさを感じる見慣れたレイアウトで作られています。ときには大手の求人サイトに掲載されていることも。理性的に確認するよりも先に、見た目や雰囲気安心してしまいます。有名な企業のロゴや、信頼できそうな肩書きなど権威や専門性がさらに信頼感を錯覚させます。いいねの数やレビューが多いことも正当化の材料に。

でももしあなたが詐欺師なら、怪まれるような行動をするでしょうか。きっと信頼感のあるきちとした服装をし、常識的な振る舞いをするのではないかと思います。直感的に見た目や雰囲気で判断してしまう。それが犯罪やトラブルのきっかけになっているのです。

自分の弱みや行動スタイルは有益な情報

とはいえ、個人情報を書かなければ大丈夫、と思うこともあるかもしれませんが。「コメントを書くだけなら大丈夫」「個人情報をあげてないしフォローするだけなら」そこがすでに落とし穴です。あなたを騙したり、犯罪に巻き込むのに個人情報は必須ではありません。「私は個人情報をしっかりと守っている」と思っている人ほど心理的バイアスには無防備なことも。甘い誘惑にコメントやフォローすることは「わたしは誘惑に弱い人間です」とメガホンで叫んでいるようなものです。さらにも SNS などで「お金ない」「バイトきつい」「親と不仲」など心の弱さを見せるような投稿をしていると狙われる可能性は増します。「心のスキ」を察知され、寄り添った風に見せた

アプローチを仕掛けられてしまいます。

心のスキ（弱い気持ち）につけこまれることで起こりうるネット犯罪・トラブル

犯罪・トラブル名	概要	よく使われる甘い言葉・誘い文句
闇バイト（犯罪型バイト）	特殊詐欺などの「受け子」「運び屋」に加担させられる	「誰でも簡単に高収入」「即日現金」「匿名 OK」
ロマンス詐欺（恋愛詐欺）	SNS やマッチングアプリで親密になり、お金をだまし取られる	「あなたが運命の人」「困ってるから助けて」
性被害型詐欺	好意を装って裸の画像や動画を送らせ、脅して金銭や性行為を強要	「誰にも見せないよ」「好きだから見せて」
副業詐欺・投資詐欺	「不安定な生活」を狙って、高額な教材や怪しい案件に誘導	「初心者でも稼げる」「月収 100 万円も可能」
詐欺的な物販トラブル	「応援購入」「在庫処分」などで高額な商品を売りつけられる	「数量限定」「あなたにだけ特別価格」
情報商材詐欺	成功体験を強調して、内容の薄い情報を高額で販売	「誰にも言わないでね。内緒で教えるよ」
ネットワークビジネスの勧誘	夢や人間関係への欲求に付け込んだマルチ商法	「この動画見た？」「助けて！これ見て」
乗っ取り／なりすまし被害	信頼した相手からのリンクでパスワードを盗まれる	「あなたにぴったりのビジネスがある」
コミュニティ依存・洗脳	優しい言葉で囲い込み、思考や行動をコントロール	「ここにしかあなたの居場所はない」

「心のスキ」を狙う手口

偽のプロフィールや写真を利用して、長期にわたって信頼関係を築く、というケースも増えています。ディープフェイクと呼ばれる AI 技術が悪用され、顔や声を本物であるように見せるのも簡単な時代。「自分の弱さを理解してくれた」と一度感じると疑うことはとても難しくなるのです。どう事実を確認し、何を信じるのか。見極めるスキルが必要な時代です。



ネットリテラシー 今月のポイント

- 「自分の弱さ」はインターネットにあげない
- 事実を確認するスキルを身につける
- 信じてしまう心理を学んでおく

心理

保護者からの相談 # デバイス依存 # 心のケア



Q こどもが個人情報を送ってしまいました。

こどもがお小遣い欲しさに怪しい SNS の勧誘に乗ってしまい、個人情報を送ってしまいました。いわゆる闇バイトというもので、怪しいと感じ断ろうとしたら個人情報を晒すと脅されたようです。警察に相談しようとしたが、闇バイトへの加担は犯罪助助となるため、自分も捕まるのではないかと不安でやめてほしいとこどもから言われています。こどもにどのように接すれば良いのでしょうか？



まず、保護者の方に相談できる環境があり、より大きなトラブルになる前に防げたという点でお子さんとの関係をしっかりと築けていっしょなのだなと感じました。

このケースのように保護者に相談ができるような関係性ができていることが第一に重要です。普段からコミュニケーションを取るようして、困ったことでも相談できるような風通しの良い家族の関係を作っておきましょう。

相談されたらまずは「相談してくれて良かった」と伝えてあげてください。感情的になり「なんでそんなことしたの！」などと責めると、今後トラブルがあっても隠すようになる可能性が高まります。緊急性が高いと判断した際には、お子さんや家族の安全確

保、犯罪のこれ以上の加担を防ぐため、勇気を持って、すぐに警察へ相談するようにしてください。事態が落ち着いたら「なぜこのような事態になったのか、これから同じことを起こさないためにどんな対処ができるかを一緒に考えよう」と話し合う場を持ってみてください。

なぜこのような事態になったのか

周囲の大人は「この子が何を求めていたのか」を考える必要があります。今回のケースではお金を手に入れることで何を果たしたかが重要です。自己肯定感が低い子ほど身につけるものや自分のステータスに固執する傾向があります。他で補えるものがないと感じていると、それを手放すことに大きな不安と心細さを感じます。

最近はオンラインゲームを通じて、犯罪行為に勧誘される事例も発生しています。自分より強かったと感じているプレイヤーから誘われて興味を持つ、ということ自体は自然な流れです。また、SNS で同世代の子の投稿に刺激され、「自分も仲間に入りたい！」と課金するために多くのお小遣いを求めるこどもたちもいます。

仲の良い子に誘われて断れず、危ないとわかっていても足を踏み入れてしまう子もいます。トラブルの背景に承認欲求を満たしたい、友達に認められたい、などは満たされない気持ちがあります。そこに気づくことが最初の一步です。

また、保護者の自己肯定感が高すぎても低すぎても「この子は大丈夫」という正常性バイアスが働きます。自分の子育てに向き合うのが怖いと感じると、学校や企業、行政などに怒りがむき、こどもの学習機会を損なう可能性があります。

これから何ができるのか

スマホを取り上げるなどの制限をするだけでは意味がありません。これからの時代、インターネットと関係しないて生きていくことはとても難しいことです。トラブルから身を守っていくスキルも必要になります。また、厳しく叱ることが重要な場面もありますが、繰り返し責められると人は感情が麻痺し、現状に向き合うことがさらに難しくなります。学びとして今後につけていく姿勢で関わっていくことが求められます。

まずはこどもと一緒にどんな対処法があるのかを一緒に考えてみましょう。大人もネットのリテラシーを向上させていくことが重要です。例えば闇バイトがどのような流れでスカウトされるのか、巻き込まれたらどんなことが起こるのかを知っておくのも良いでしょう。「ネットトラブル」で検索すると文部科学省の詳しいサイトなどもありますので、ぜひ活用してください。

お子さんが詐欺や闇バイトに騙される、ということはインターネットを使っているということでもあります。今こどもができていないことを目をつけ、「ここはできていないね」と言葉にして伝えていくことも重要です。そして「失敗しないように」するのではなく、失敗から立ち直る力を伸ばしていくことを重視して、課題を解決するプロセスも一緒にこどもと歩んでいただけたらと思います。

背景として考えられるもの

- ネットリテラシーの低さ
- 正常性バイアス 自分だけは大丈夫、このくらい大したことはないと思えようとする無意識の心の働き
- 想像力の低さ
- 人間関係 きっかけとなる友人や知人がいるケースが多い
- 自己肯定感の低さ



a spoonful of suger
公認心理師・臨床心理士

浅井 育子 先生

田辺市上屋敷でカウンセリングルームを主催。病院での勤務経験やスクールカウンセラーの経験を生かし、ひきこもり・不登校などの課題の解決に向けたカウンセリングを実施している。

2025年6月のネットパトロールで発見された問題投稿は15件。そのうち迷惑・危険行為が8件、誹謗中傷が5件、喫煙が2件発見されました。迷惑・危険行為については授業中や撮影不可の場所で勝手に撮影したり、お店の備品でふざけたりする動画が上がっています。また、原付バイクに2人乗りで乗っている動画も。誹謗中傷については、今中高生の間で流行っている「交換紹介」という行為の中で悪口のようなコメントとともに該当者のアカウントを載せて投稿するようなものがみられました。

迷惑行為を気軽に SNS に投稿

分析

インターネットが世界中に公開されている感覚を持てていない可能性。

原付バイクに2人乗りをしていたり、お店の備品でふざけたりする動画の投稿を行っている理由にはいくつかの背景がみられます。

承認欲求・自己顕示欲	「すごい!」「ヤバイ!」という反応をもらうことが価値や存在感の証明になっている
スリルと快感	ルール違反が「つまらない日常の中の刺激」と位置付けられている
仲間からの承認欲求や同調圧力	ノリや空気に逆らえず、断ることで「つまらないやつ」と思われたくない
インターネットと現実が結びついていない	ネットに載せるのは「ネタだから本気じゃない」「動画のようにやっているだけ」と動画の中の自分と現実が分離してしまっている
将来への視野の狭さ	自分の行動がどんな影響を与えるか、将来の自分や他人にどう関わるかまで想像できていない。投稿した内容が拡散し、学校・進学・就職・家族に波及してしまうという現実感がない

悪意というよりも、未熟さ・承認欲求・環境要因によって生まれています。

万が一、問題行動が発覚したら、単なる注意や叱責で終わらず

なぜ投稿したくなったのかを自分で振り返る問いかけ

その投稿で誰がどんな気持ちになるか?という他者視点の想像

将来の自分がその投稿を見た時、そう感じるか?という時間軸の意識

を促すような対話型のアプローチが効果的です。

「お金配ります」というアカウントをフォローしているこどもたちが多数

分析

「もしかしたら本当かも」という気持ちが、「一旦フォローしておこう」という行動に。

いいね!やフォローも自分を表現してしまいます。自分が「お金に困っている」「お金が欲しい」と思っていることを悪意のある人間に知られると、その欲求が利用され、犯罪やトラブルに巻き込まれやすくなるという想像がついていません。本気で信じているわけではなくても「もし本当だったら損してしまう」と感じると、正当化するバイアスがかかり、事実を捉えられなくなります。また、自分の中に満たされないものや不安がある時は、さらに正常に判断することができません。SNS の使い方について詳しく知っておく必要があります。

先生方や保護者、支援機関からの情報提供・相談も受け付けます。

わかやまネットトラブル相談窓口では、先生方や保護者の方からの相談も受け付けています。問題のある投稿を見つけた、この問題に対しての対処方法を教えて欲しいなど、インターネットのトラブルに関連する様々な解決をお手伝いします。web サイト右下のチャットからアクセスして、ご相談をお寄せください。



外でやらないことは、インターネット上でもやらない。

講座日	学校名	講座内容	対象生徒の学年	人数
6/2	近畿大学附属 新宮中学校	情報モラル	中学1年生	36名 (教職員2名)
6/2	近畿大学附属 新宮高校	情報モラル	高校1年生	147名 (教職員4名)
6/5	南部中学校	犯罪やトラブルの防止	中学1年生から 3年生	125名 (教職員17名)
6/6	丹生中学校	犯罪やトラブルの防止	中学1年生から 3年生	65名 (教職員15名)
6/9	紀見北中学校	情報の利活用	中学1～3年生	161名 (教職員10名)
6/13	野上小学校	犯罪やトラブルの防止	小学5、6年生	57名 (教職員4名)
6/18	紀央館高校	犯罪やトラブルの防止	高校1年生	143名 (教職員11名)
6/23	南部高等学校	情報モラル	全校生徒	243名 (教職員30名)
6/27	有和中学校	情報モラル	中学1～3年生	595名 (教職員50名)
6/30	きのくに 子どもの村学園	犯罪やトラブルの防止	小学4～ 中学3年生	127名 (教職員12名)

保護者参観の日に合わせていただいて、保護者にも一緒に参加いただくことも。

保護者参観の日に合わせていただいて、保護者と一緒に聞きいただくこともあります。児童・生徒向けの講座の後、保護者向けに少しお話しさせていただくこともあります。こどもたちだけでは、トラブルを防ぐことは難しいこともあります。保護者のネットリテラシーを向上することも、こどもたちを守ることに繋がります。ぜひこどもたちと一緒に先生方や保護者の方にも、楽しくネットトラブルについて学んでいただき、インターネットの使い方に生かしていただけたら幸いです。

小学校・中学校・高校・支援学校からの
お申し込みお待ちしております。



ネットトラブル相談窓口

ネットトラブルの相談、お待ちしております。

わかやま ネットトラブル 相談窓口

リラとカイがみんなの
疑問や不安に
答えます。

ネット上で困っていることがあれば、チャットを使ってお話ししてね。
解決方法を一緒に考えます。
15:00～19:00の間は、必要であれば相談員さんにもチャットできるよ。

和歌山県 令和7年度「青少年ネット安全・安心のための環境整備事業実施業務」
委託事業者：TETAU事業協同組合

©2025 TETAU

24 時間、チャット bot で相談いただけます！

ネットトラブルの相談窓口がオープンしました。右下のリラちゃんのボタンからチャットを行うことができます。24 時間、チャット bot が自動で対応するため、気軽に相談ができます。平日 15:00-19:00 には希望すれば相談員とお話することも可能です。こどもたちからの相談はもちろん、先生方・保護者・青少年の支援機関からの情報提供や相談も受け付けています。

インターネット上での こんなことを相談いただけます！

- アカウントを乗っ取られた
- 無断投稿を削除してほしい
- 暴力的な表現の投稿を見つけた
- 危険な行為の投稿を見つけた など



青少年

保護者

学校関係者

支援機関



わかやま
ネットパトロール通信

令和7年度「青少年ネット安全・安心のための環境整備事業実施業務」
企画・制作：TETAU 事業協同組合

お問い合わせ

TETAU 事業協同組合

050-5536-9139 (平日 10:00～16:00)

netpat@tetau.jp (担当：森脇・信貴・中村)

和歌山県 共生社会推進部 こども家庭局 こども支援課

TEL：073-441-2502 FAX：073-441-2491

メール：e1104001@pref.wakayama.lg.jp